

【学位論文審査の要旨】

本研究は、日本版移動手段の変化に関するレディネス尺度(Reliability and Validity of the Japanese Version of the Assessment of Readiness for Mobility Transition (ARMT-J) for Japanese Elderly,以下 ARMT)の信頼性と妥当性を検証することを主目的に、中途障害者や高齢者の車の運転を含む移動手段の確保に関する現状と課題について検討が行われていた。

ARMT は、移動に対する質問(例、移動性を失うことは自尊心をひどく傷つけるものだ、私は家族を含む他の誰かに地域での移動の助けを頼むことに負担を感じる)に対してどの程度同意するのかをたずねる、自己記入式の質問紙である。ARMT は行動変容理論に基づき開発されており、移動手段確保に対する支援を必要とする潜在対象者を発掘することを目的としている。現在、作業療法(以下、OT)では移動手段の確保や自動車運転に対して支援が行われているが、作業療法が処方された対象者に限られている。言い換えると、OT が提供されていなければ潜在対象者に対して何も関わっていないのが現状である。申請者はこの点に注目し、ARMT-J を開発することにより、潜在対象者の掘り起こしを行い、作業療法を提供する機会を拡大する一助となるよう試みた。そのような取り組みは本邦初の取り組みであり、本研究の新規性と独自性として評価することができ、社会への普及可能性の点においても高く評価することができた。

ARMT-J の開発は、Consensus based Standards for the selection of health Measurement Instruments: 以下 COSMIN)にもとづき進められていた。COSMIN の評価に基づくと、本研究はどの項目も高いレベルで質が確保されていた。また、今回の博士論文では、運転中断者に対する支援の枠組みを検討する取り組みも行われており、評価表の利用方法を見据えた研究も実施されていた。

審査会では、論文全体の構造、開発過程における疑義、用語の定義、サンプリング方法について質疑が行われた。これらの疑問に対して丁寧に回答されていたほか、研究の限界と課題についても的確に説明することができた。また、申請者の所属施設が所有する自動車運転教習コースを使った作業療法との組み合わせについて説明もあり、今後も研究を発展していく姿勢が確認できた。以上の通り、本研究は新規性や切実性を十分に有した研究であること、研究者として今後の成長と発展が期待できることから、本論文が博士論文の水準を満たし、著者が博士の学位（作業療法学）に相当すると認める。